

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 76

2023年4月発行

春に想う



春が来て、楽童ほうぷでは、4人の高校生が卒業していきました。小学生の時から成長を見守ってきた彼ら彼女らは、本当に成長して巣立っていきました。幼いころを思い出すと感慨深いものがあります。彼らの紹介は次ページにありますので、ぜひご覧ください。

相談支援ほうぷでは、11名の小学1年生を担当しています。この春、幼稚園や保育所、そして、就学先の小学校を訪問して回りました。保護者の方々の不安がとても大きいことを感じています。その原因の一つに、昨年4月に出された文部科学省の通知があります。特別支援学級に在籍する児童生徒は週の授業時間数の半分以上を目安として特別支援学級において児童生徒の一人ひとりの障害の状態や特性および心身の発達の段階等に応じた授業を行うことという内容のものでした。「共に育つ」ことを大切にしてきた大阪において、これは大問題です。それぞれの子どもに必要な支援を行う場がなぜ特別支援学級でなければならないのか？なぜ授業時間の半分以上が目安なのか？文部科学省の出した通知は、子どもたちをさらに分け隔てるように思われます。

障がいの有無にかかわらず、それぞれの子どもに必要な教育を行うためには、1学級の人数を減らして欲しいと思います。また、学校を訪問するたびに、障害児を支援するために教室に入っている先生が、結局、様々な子どもの支援をされている光景を見ます。担任の先生だけではなく、二人の先生が必要だなあいつも思います。

また、近年、不登校の子どもも増えてきていると感じます。相談支援ほうぷでも不登校の児童生徒を担当しています。不登校の原因はわからないケースが多いのですが、評価され指導される場である学校は、一部の子どもにとって安心できる場ではないのかもしれないかもしれません。どんな子どもにも、「あなたはあなたのままで、あなたがここにいるだけで、わたしはうれしいよ」と大人が伝えていくことが大切だと思います。私たちは、そんな「居場所」になりたいと思っています。

(向井 裕子)

アートから生まれるつながる場

ほうぶミュージアム ～ぼくらのそつぎょうてん～ 3月19日

正直アートとは何かまったくわかっていませんが、子どもたちが描く絵が単純に好きだなと思います。家族さんからすると、「この絵が？」と思う方も多いようですが、「いやいやこの絵がいいんですよ」と力説したくなります。

普段から素敵な絵をかいてくれるA君。絵ではないですが味のある文字をかくHさん。本人はまったく絵を描くことに興味はないけど、独自の視点で切り取った絵を描くAさん。そして存在そのものがアートのようなK君。

そんな四人が今春、高校を卒業し、ほうぶを卒業。彼らの絵がみられるのも3月まで。なんて寂しい。

というかこんな素敵な絵を私たちだけで楽しむなんてもったいないのではないか。展示してみんなにみてもらう？ やっちゃう？

やっちゃえ！

なんてノリと勢いでほうぶミュージアムがスタートしました。4人に「やりますか？」と声かけしてOKをもらい、『ほうぶミュージアム』という名前をK君が命名してくれました。スタッフは、絵を額縁にいれて飾るたびに、「これは私が買いたいわ」「販売せず隠しとこかな」など自爆営業を予感させながら、がやがやと準備を進めていきました。どうやって作品をみせるか、展示方法についてはスタッフ西井が才能を発揮。

「流木につるしたらいいと思うんで、持ってきます。」

あるの？ 家に？ …流木が？

「イーゼルに絵を飾ってもいいし、当日絵を描くパフォーマンスしたらいいと思うんで、持ってきますね。家に10個ほどあるんで。」

あるの？ 家に？ …イーゼル 10個も？

西井家は四次元ポケットか何かだろうかと思うぐらい次から次へと物品がとびだしてきたおかげで無事に当日を迎えることができました。



ほうぶミュージアムへようこそ！



ミュージアムショップも併設

本当に人くるかな、こんかったらどないしようと思わしていましたが、お向かいの方がきてくれ、ほうぶミュージアムのチラシを持った方がきてくれ、スタッフの知り合いや子どもたちの家族さんがきてくれと、気づけばたくさんの方が彼らの絵を見に来てくれました。

A君が描いた巨大な絵は紙が大きすぎたということと、A君は紙を回転させながら描いたので、上下がなくて、どう展示するかを悩んだ結果、ほうぶの倉庫に眠っていた手動ろくろを呼び覚まし、ろくろに乗せて展示するという斬新なスタイルに（横にはなぜかK君の等身大パネルがドドーンと展示）。見に来てくれたほうぶを利用してきている小2の子はガラガラ笑って楽しそうに絵を回していました。

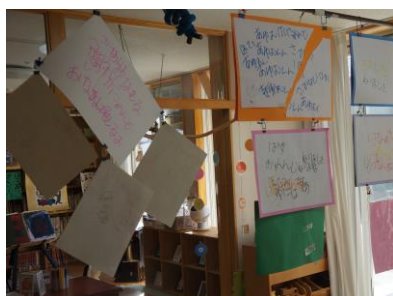


この絵は絵を回転させながら描いたらしい
ご自由に回してくれ
by K



Hさんの作品では、『きのした ねりました』という文字がありました。「ねりましたって…何?」と疑問をこじらせていたのですが、家族さんが見に来てくれた際にその謎が判明。どうやら『寝ました』ということだとか。そりゃわからんわ。

「この先生の名前がでるのはレアですよ」「字を書くようになったのはいつからだったかな」「小学校ではなんとか先生が絵を描かそうとして」など色々話を聞くことができ、Hさんの成長を感じることができました。



文字のアート



「ありました。ありますよ」刺繍バッグも販売

Aさんの作品は記念すべき販売第一号。スタッフも気に入っていた絵だったので、無事お客さんの子になってお持ち帰りされて、おもわずニヤニヤしてしまいました。家族さんも見に来てくれ、「うちの子の絵は別にいいんですよ」と言われていましたが、スタッフとしては来てくれたことが嬉しく、一緒に来ていた妹さんは、Aさんの塗り絵を気に入って持ち帰ってくれました。

(A君、K君、Aさんの絵を塗り絵にして当日用意。来場された方に自由に塗ってもらいました)。



流木につるされたおしゃれ絵文字



可愛い干支のイラスト



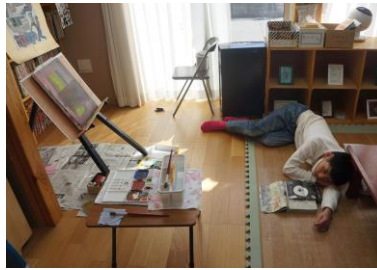
塗り絵コーナーも準備しました

K君は当日在廊してくれ、絵を描くパフォーマンスを披露。お客さんが来ている時だけしっかり絵を描き、昼食後はいつも通り、あたたかい陽だまりの中お昼寝するというマイスタイルを貫いていました。ちなみに、今回の売り上げの一部はお給料として渡すことになっており、K君はどうやらそのお金でポケモンのぬいぐるみを買いたかったようでした。

しかし、自分の絵をなかなか売ろうとせず、終了間近になってから色んな人に押し売りをし、結果、以前ほうぷにバイトに来てくれていた方になんとか絵を買ってもらっていました。



アーティストK



ぐーたらK君



何とか絵を売ろうと頑張るK君

ご来場の方々に感想を書きいただきました。

- ・ダイナミックなもの、繊細なもの、なんだろう？と
考えて楽しめました。
- ・ほとばしるパワーに圧倒されました！元気もらいました。
- ・のびのびと自由な色使い、線、よかったです。
一歩一歩前へ！
- ・卒業おめでとうございます！
ステキな空間にいやされました。ありがとう。
- ・どの作品ものびのび書いてるかんじ&ほうぷの素敵な
建物と暖かい春の日差しと風、スタッフの雰囲気
うまくマッチしてます。
- ・ステキな卒業展でした。ハッピーおみくじおすすめです。
みなぎってました。
- ・ぬりえがたのしかったよ。

本当にたくさんのお言葉をいただきました。

付箋に書かれたたくさんのメッセージ



四人の絵を通してほうぷを知っている人も、あまり知らない人も、交流することができ、こんなに楽しい時間を共有することができるのは正直思っていませんでした。今の世の中、価値ある存在でなければ、社会に役に立つ人間にならなければ、などと息苦しく感じるこ

とも多いかと思ひます。でも、本当はそんな肩ひじはらなくても、自分がただ楽しいと思う事を思う存分に楽しめばいい、そうすればおのずとそこになにかしらの価値は生まれるのではないかと考えています。普段から子どもたちは遊びの中で素敵な作品をつくってくれています。それが今回立派なアートになり、色んな人を楽しませてくれると知ることができました。今後は普段の活動の中で生まれた作品を展示し、アートを通して色んな人と交流ができ、楽しい時間を共有できる場づくりができればいいのではないかと考えています。

たくさんの方がきて楽しんでくれたことでスタッフは幸せな気持ちに、来場者の方は絵を通して楽しむことができ、かつスタッフを幸せな気持ちにしたことで徳をつむことができるという幸せのループの完成です。

徳をつみたい方はぜひ、ほうぶミュージアムへ！ …しらんけど。 (浦平 佳代子)

男女共同参画「地域出前セミナー」

デートDVについて（支援者向け） ～ 防止、および対応の在り方を考える ～

日時：2023年1月24日（火）10:30～12:00

講師：原田薫氏（ウィメンズセンター大阪 代表）

参加者：放課後等デイサービス職員8名、ほうぶスタッフ7名

DV、デートDVに使われる様々な暴力のこと、性暴力について、相談を受けた際の対応について、そして、子どもの話を聴くときの留意点など、支援者向けの研修会を開催しました。旭区事業所連絡会のメーリングリストで広報したところ8名の参加がありました。改めて、人権について考えさせられた貴重な時間をなりました。

ほうぶ子育て支援セミナー

みんなで応援したい！ “この子”らしい成長・発達 ～ 子どもを理解し、育み、支えるヒント ～

日時：2023年2月17日（金）10:00～12:00

講師：西原弘氏（児童発達支援事業所ガタンゴトン 所長）

参加者：保護者7名、支援者1名、ほうぶスタッフ7名

発達がゆっくりなお子さん、発達に凸凹のあるお子さんとの生活のなかで、ついつい、まわりの子どもとわが子を比べてしまったり、「できない」こと、「苦手なこと」に目がいきがちになってしまうことがあります。大切なわが子のよりよい成長を願うのは、親としての自然な気持ちです。わが子の行動をどう理解すればいいのか？何をどうしてあげるのが、わが子の成長にとって一番いいのか？

研究者であり実践者であり親でもある西原先生のお話に、涙ぐむ保護者の姿もありました。支援者にとっても多くの学びがありました。

放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」報告

トピック1：戻ってきたお祭りのにぎわい

「ウィズコロナ」への動きが進むなか、校区の小学校を会場に開かれてきた「清水フェスティバル」が、3月5日（日）に、3年ぶりに再開されました。

昨年時点での再開の準備が進められており、楽童ほうぷからもブース出店の予定でしたが、感染拡大のタイミングが重なり、直前にあえなく中止の判断が下されました。どうしたものかと思案し、ほうぷの屋外テラスで駄菓子屋を開くぐらいなら、地元の小学生にも楽しんでもらえるのではないかと意図で急遽開催したのが「ほうぷ商店」でした。

ある意味、ピンチをチャンスに転じるべく考案した企画でしたが、それから1年が経ち、「ほうぷ商店」は、すっかり定例行事となり、これまで出会う機会がなかった地元の方々にも、楽童ほうぷの存在を知っていただける機会になっています。いま置かれている状況の中でも知恵を出し合っていることを模索してきたことで、結果としてコロナ以前よりも地域に根ざした体験活動の充実につなげていくことができたように思います。

3年ぶりの「清水フェスティバル」では、「ほうぷ商店」出張販売として、駄菓子すくいコーナー、手作り雑貨コーナー、フェルトキーホルダー創作体験コーナーの3ブースを用意しました。コロナ以前と比較して、およそ3倍の人出があったそうで、あちこちの屋台ブースではあっという間に食べ物が売り切れ、「ほうぷ商店」の駄菓子すくいコーナーも、山のように仕入れた駄菓子がどんどん減っていき、当初のプランよりもはるかに早く打ち止めとなりました。それだけたくさんの地域のみなさんの心に、このお祭りの存在が根づいていたのだと改めて感じました。



トピック2：グループワークをリニューアル

土曜日活動のグループワークについて、スタッフ間での意見交換を重ねるなかで、今年1月から、それまでみんなで大きな輪になって座る形式で行っていたのを、3～4人の小グループ単位でちゃぶ台を囲みながら話し合う形式に大幅にリニューアルしました。話し合いのテーマ設定についても、「3月の卒業・進級パーティーでなにをしたいか」「春休み期間中のクッキングでなにを作りたいか」など、自分たちでほうぷの活動内容に関する事柄を決めていくための場として位置づけることにしました。自分の考えを想起するための条件設定として、これまでの行事で実際に行ったプログラム内容について写真でふりかえるなど、視覚的な手がかりも用意しました。

いざ新形式でスタートしてみると、少人数でちゃぶ台を囲んでいる方が、大きな輪になって行っていたときよりも



話し合いに集中しやすく緊張感も和らぐこと、話し合いのテーマも具体的かつ身近に感じられるようで、自らが当事者として考えをめぐらせやすいことが子どもたちの様子からうかがえました。各グループで出された意見を発表する機会を設けることで、さまざまな意見を全体でシェアすることもできました。実際に、3月末の「卒業・進級パーティー」では、子どもたちの意見を組み合わせた宝探しゲームを実施することができました。グループワークを媒介に、子どもの声を反映したプログラムが生み出されるプラスの循環が動き出しています。



(渡邊 充佳)

● 法人内の活動報告 ●

- 1月 1日(日) ヘルプセンターほうぶ始動(居宅介護事業・重度訪問介護事業・移動支援)
- 1月 7日(日) 同志社大学ソーシャルワーク基礎実習(実習生受け入れ)実習開始(ほうぶ)
- 1月 22日(日) 子ども情報研究センター研修「こども基本法」受講(オンライン)
- 1月 24日(火) 職員研修 クレオ大阪東地域出前セミナー「デートDV」受講(ほうぶ)
- 2月 24日(金) 中学校内居場所研修受講(スマイルゆ〜とあい)
- 3月 17日(金) 中学校内居場所カフェ見学(茨田中学校)
- 3月 18日(土) 同志社大学ソーシャルワーク基礎実習(実習生受け入れ)実習終了(ほうぶ)
- 3月 19日(日) ほうぶミュージアム ぼくらのそつぎょうてん開催(ほうぶ)
- 3月 27日(月) 虐待防止委員会の開催(ほうぶ)

● 地域活動報告 ●

- 1月 17日(火) ブックスタート(ほうぶ)参加3組
旭区地域自立支援協議会 事業所連絡会(児童)(旭区役所)
- 1月 18日(水) 清水地域子育てネットワーク会議(清水小学校)
清水地域活動協議会(清水小学校)
旭区地域自立支援協議会 本会定例会(旭区役所)
- 1月 20日(金) 子ども情報研究センター理事会(オンライン)
- 2月 7日(火) 旭区地域自立支援協議会 こども部会(旭区役所)
- 2月 8日(水) 神戸松蔭女学院大学ゲストスピーカー(神戸松蔭女学院大学)
- 2月 15日(水) 旭区地域自立支援協議会 相談支援部会(旭区役所)
清水地域活動協議会(清水小学校)
- 2月 19日(日) おやこひろば ほうぶ「おんがくひろば」(ほうぶ)
- 3月 3日(金) 旭区子育て支援「あさひの輪」会議(旭区社会福祉協議会)
- 3月 5日(日) 清水フェスティバル(清水小学校)
- 3月 14日(火) ブックスタート(ほうぶ)参加3組
- 3月 15日(水) 旭区地域自立支援協議会 本会定例会(旭区役所)
- 3月 17日(金) 子ども情報研究センター理事会(オンライン)

